

キリスト教〈キリスト教〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キリスト教と文化	①/②	11117	Ⅲ	春／秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
尾崎 秀夫	選択	2			

授業の到達目標

とりわけ日本では宗教を非科学的なもの、科学と対立するものとの考えが根強い。キリスト教にかんしても、教会は科学の発達に反対の立場をとってきたと考えられている。本講義では、キリスト教と科学の関係について再検討する。この授業ではE（倫理）に重点を置く。

授業の概要

まず、聖書と科学の関係を考察する。聖書、たとえば旧約聖書の冒頭部分などは現代の科学で否定されているが、キリスト教はそれをどのように考えてきたのであろうか。次に地動説の出現に対してキリスト教がどのように対応したかを考察する。一般に、キリスト教は新しい考えに否定的で、それを弾圧したとされるが、コペルニクスやガリレオなどに対する教会の対応を検討する。

授業計画

1. 導入
2. 聖書と歴史
3. 出エジプトと歴史研究(1)
4. 出エジプトと歴史研究(1)
5. 古代における宇宙観
6. 古代における天動説と地動説
7. 中世における天動説
8. コペルニクス(1)
9. コペルニクス(2)
10. ジョルダーン・ブルーノの地動説
11. ガリレオ・ガリレイ(1)
12. ガリレオガリレイ(2)
13. 科学の発達とキリスト教
14. 聖骸布
15. まとめ

授業の方法

講義を中心に、意見を求めたり、話し合いを取り入れたりする。

準備学修

地動説について復習しておくこと。準備学修には、参考文献を読むことなどで60時間以上を必要とする。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

5回を超える欠席者には受験資格を認めない。

テキスト

とくに定めなし。

留意事項

講義中の私語は禁止する。授業の途中での退出も原則として禁じる。途中退出は遅刻、15分を超える場合は欠席とみなす。

基礎〈基礎〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
基礎演習Ⅰ	ET	11201	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
堀 正人/佐伯 瑠璃子/吉野 美智子/酒井 新一郎/有村 理	必修	1			

授業の到達目標

この授業では、大学入学以前に学んだことを復習するとともに、大学で必要なスキル等について学ぶ。この授業では、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）を養う。

授業の概要

前半では、高校以前に学んだことを復習する。基礎学力は大学での学修でも、あるいは卒業後の生活でも必要である。すでに理解していることは確認し、忘れていたことはしっかりと思い出して欲しい。後半では、大学での学修に必要なアカデミック・スキルを学ぶ。また基礎演習後半のクラスが、1年次のクラスとなるので、しっかりと人間関係を築いて欲しい。

授業計画

1. (1)オリエンテーション
- (2)言語1
2. (1)言語2
- (2)オリエンテーション(体育室)
3. 図書館案内
4. (1)言語3
- (2)言語活動(PC使用実践)
5. (1)言語4
- (2)言語活動(PC使用実践)
6. (1)社会1
- (2)学生生活(学生相談)
7. (1)社会2
- (2)学生生活(課外活動1)
8. (1)社会3
- (2)学生生活(課外活動2)
9. (1)社会4
- (2)言語活動(PC使用実践)
10. (1)数学1
- (2)言語活動(比較分析)
11. (1)数学2
- (2)言語活動(情報収集法)
12. (1)数学3
- (2)言語活動(PC使用実践)
13. (1)数学4

(2)言語活動(発表力)

14. (1)確認試験1
- (2)おもてなしとマナーについて
15. (1)確認試験2
- (2)ホスピタリティー研修事前指導

授業の方法

演習形式
後半は言語活動、クラス討議や研修を行う

準備学修

テキストでしっかり予習・復習すること。eラーニングで学ぶこと。準備学修には60時間以上かけること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

3分の1以上欠席した者には受験資格を認めない。

テキスト

一般常識リメディアルテキスト（育仲社）

留意事項

リメディアル学習の確認試験では、原則として80点以上をとらなければ不合格とする。欠席1回につき合格点は1点上がる。eラーニングを課題とし、指定された箇所まで進んでいなければ単位を認めない。教学カルテも評価対象とする。

教員連絡先

ozaki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基礎〈基礎〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
基礎演習Ⅰ	PC	11201	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
石島 多恵／森 晴美／中園 佐恵子／渋谷 美智	必修	1			

授業の到達目標

この授業では、大学入学以前に学んだことを復習するとともに、大学で必要なスキル等について学ぶ。この授業では、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）を養う。

授業の概要

前半では、高校以前に学んだことを復習する。基礎学力は大学での学修でも、あるいは卒業後の生活でも必要である。すでに理解していることは確認し、忘れていたことはしっかりと思い出して欲しい。後半では、大学での学修に必要なアカデミック・スキルを学ぶ。大学の授業で必要なこと、そして卒業後社会人として役立つことなどを身に着けていく。また基礎演習後半のクラスが、1年次のクラスとなるので、人間関係を築いて欲しい。

授業計画

1. (1)オリエンテーション(大学生としての姿勢)
(2)言語1
2. (1)言語2
(2)オリエンテーション(本学の学生としての姿勢)
3. 図書館案内
4. (1)言語3
(2)クラスでの自己紹介
5. (1)言語4
(2)授業の受け方
6. (1)社会1
(2)学生生活(学生相談)
7. (1)社会2
(2)学生生活(課外活動1)
8. (1)社会3
(2)学生生活(課外活動2)
9. (1)社会4
(2)理解と表現(作文など)
10. (1)数学1
(2)理解と表現(比較分析)
11. (1)数学2
(2)リサーチの方法(情報の集め方)
12. (1)数学3
(2)リサーチの方法(レポートの作成)

13. (1)数学4
(2)簡単なプレゼンテーション
14. (1)確認試験1
(2)マナー
15. (1)確認試験2
(2)スタディスキル確認演習

授業の方法

演習形式

準備学修

webで参照すること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

3分の1以上欠席した者には受験資格を認めない。

テキスト

一般常識リメディアルテキスト（育仲社）
3訂 大学 学びのことはじめ～初年次セミナーワークブック（ナカニシヤ出版）

留意事項

リメディアル学習の確認試験では、原則として80点以上をとらなければ不合格とする。欠席1回につき合格点は1点上がる。eラーニングを課題とし、実力診断テスト10クリアすることとする。

教員連絡先

ozaki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基礎〈基礎〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
基礎演習Ⅱ	ET	11205	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
堀 正人／佐伯 瑠璃子／吉野 美智子／酒井 新一郎／有村 理	必修	1			

授業の到達目標

この授業では、大学入学以前に学んだことを復習するとともに、大学で必要なスキル等について学ぶ。この授業では、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）を養う。

授業の概要

前半では、高校以前に学んだことを復習する。基礎学力は大学での学修でも、あるいは卒業後の生活でも必要である。すでに理解していることは確認し、忘れていたことはしっかりと思い出して欲しい。後半では、大学での学修に必要なアカデミック・スキルを学ぶ。また基礎演習後半のクラスが、1年次のクラスとなるので、しっかりと人間関係を築いて欲しい。

授業計画

1. (1)言語1
(2)言語活動(PCの使用実践)
2. (1)言語2
(2)言語活動
3. (1)言語3
(2)言語活動
4. (1)言語4
(2)共同作業
5. (1)社会1
(2)共同作業
6. (1)社会2
(2)言語活動(PC使用実践)
7. (1)社会3
(2)言語活動
8. (1)社会4
(2)言語活動
9. (1)数学1
(2)言語活動
10. (1)数学2
(2)言語活動
11. (1)数学3
(2)言語活動
12. (1)数学4
(2)言語活動(合唱練習)

13. (1)確認試験1
(2)言語活動(ディスカッション1)
14. (1)確認試験2
(2)言語活動(ディスカッション2)
15. (1)確認試験3
(2)言語活動(PC使用実践)

授業の方法

演習形式

準備学修

テキストでしっかりと、予習・復習すること。eラーニングを活用すること。準備学習には60時間以上かけること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

3分の1以上欠席した者には受験資格を認めない。

テキスト

一般常識リメディアルテキスト（育仲社）

留意事項

リメディアル学習の確認試験では、原則として80点以上を盗らなければ不合格とする。欠席1回につき、合格点を1点上げる。eラーニングを課題とし、指定された箇所まで進んでいなければ単位を認めない。教学カルテも評価対象とする。

教員連絡先

ozaki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習 I	a		13101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
有村 理	必修	2	航空会社勤務・ホテル勤務			

授業の到達目標

このゼミではこれからの日本の成長戦略の重要な柱になる「観光立国」についていろいろな側面から考える。その中でも特に観光業界で中核を担う航空業界を中心に「航空業界とツーリズムが果たす役割」をメインテーマに置く。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）、I（知性）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

観光立国に向けての現状を考えることからスタートする。前半では全員がツーリズムの中心となる航空業界について毎回課題を各自が調べ発表する。このプロセスの中でこれからの航空業界が果たす役割について考える基本とする。中盤でフィールドワークを実施し、インバウンドの動向をグループワークで調査する。後半でアウトバウンドのツーリズムとして学生らしいテーマを設定し、JATAが主催する海外卒業旅行企画に応募する。パワーポイントでの発表演習も行う。

授業計画

1. 演習についてのガイダンス
2. 観光立国とツーリズムの現状を考える、その1
3. 観光立国とツーリズムの現状を考える、その2
4. 今日の航空業界について考える
5. LCCについて調べる
6. 地域航空会社について調べる
7. フィールドワークの準備
8. フィールドワークでのグループ調査
9. フィールドワークのグループ調査結果の発表
10. 海外旅行企画の準備 その1
11. 海外旅行企画の準備 その2
12. 海外旅行企画のテーマの設定
13. 海外旅行企画を立案する
14. 海外旅行企画の発表と講評
15. まとめ・夏休みの課題

授業の方法

課題テーマについて基本的に毎週各自が調べ、それについての個人発表とディスカッションを行う。またチームでの海外旅行企画立案ではグループワークと発表を多く取り入れる。

準備学修

webで参照すること

課題・評価方法

各自の企業研究発表、またグループ発表後は担当教員によるフィードバックを行う。

『平常点70%、定期試験30%』で評価配分する。

欠席について

欠席は1回5点の減点。発表担当日は正当な理由のない欠席は出来ない。その他は大学の学則に従う。

テキスト

特に指定しない。各自の研究テーマに沿って適宜紹介する。

参考図書

『航空とホスピタリティ』山路 顕 編著（株）ANA総合研究所（2013）NTT出版
『航空グローバル化と空港ビジネス』野村宗訓・切通堅太郎（2010）同文館出版
『航空産業入門』（株）ANA総合研究所（2017 第2版）東洋経済新報社
『観光立国日本への提言』編集：長谷川恵一（2016）成文社

留意事項

発表担当日は必ず出席の事。ゼミでは自主性・積極性・協調性を重視し、各自のテーマ発表内容とそれに対する質疑などを評価する。円滑なゼミ運営に協力する態度が望まれる。

教員連絡先

arimura@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習 I	b		13101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
福智 佳代子	必修	2				

授業の到達目標

効果的な外国語学習法とは何か？この演習では、英語が苦手な日本人の立場から、ことばの習得と教授法を考察する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）、I（知性）、及びIn（国際性）を養う。

授業の概要

英語学習には、学習の開始年齢、環境的な要因、習得順序、日本語と英語の言語間距離、動機づけ等など、様々な要因が影響を及ぼしている。演習Iでは、それぞれがことばに関するテーマを選んで調査した結果をまとめて発表し、討議を行う。

授業計画

1. イントロダクション
2. 母語獲得(1)
3. 母語獲得(2)
4. 母語獲得(3)
5. 母語獲得(4)
6. 母語獲得(5)
7. 第2言語習得 (1)
8. 第2言語習得 (2)
9. 第2言語習得 (3)
10. 第2言語習得 (4)
11. 第2言語習得 (5)
12. コミュニケーションのための言語能力(1)
13. コミュニケーションのための言語能力(2)
14. コミュニケーションのための言語能力(3)
15. まとめ

授業の方法

講義、口頭発表、ディスカッション、まとめレポート提出形式で行う。

準備学修

次回のテーマについて、テキスト、参考図書を読み、ディベートができるように準備しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

- (1) 欠席や遅刻は、必ずメールにて福智（fukuchi@kaisei.ac.jp）に連絡すること
- (2) 欠席をした場合、授業内容及び課題の有無を確認し提出すること。提出が遅れた場合は減点する。

テキスト

後日連絡する。

参考図書

コミュニケーションのための言語教育 H.G.Widdowson
ナチュラル・アプローチ スティーブン・D.クラッシュン、トレシー・D・テレル
外国語学習の科学—第二言語習得論とは何か（岩波新書）新書 白井恭弘（著）
外国語学習に成功する人、しない人—第二言語習得論への招待（岩波科学ライブラリー）単行本 白井 恭弘（著）

留意事項

発表内容、出席状況、意欲的に参加しているかなどの学習態度等を統合して評価する。

教員連絡先

fukuchi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅰ	e		13101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	必修	2				

授業の到達目標

観光とは、ただ、視覚的に資源を披露することではない。訪れる側と迎える側とが、それぞれの地域や人を理解し合うことである。その理解の中心となる文化について研究し、観光が平和産業と呼ばれている理由を知る。このクラスはKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）とを養う。

授業の概要

日本の文化・文学が観光資源としてどのように受容され、また、再生・活用されているかを考える。文学・歴史・風俗習慣など、各自が興味あるテーマを選び研究することで、その文化を国外に、また、国内に紹介する意義を考察する。

授業計画

1. ガイダンス
2. 個人課題の研究発表・討論・講評
3. 個人課題の研究発表・討論・講評
4. 個人課題の研究発表・討論・講評
5. 個人課題の研究発表・討論・講評
6. 個人課題の研究発表・討論・講評
7. 個人課題の研究発表・討論・講評
8. 個人課題の研究発表・討論・講評
9. 個人課題の研究発表・討論・講評
10. 個人課題の研究発表・討論・講評
11. 個人課題の研究発表・討論・講評
12. 個人課題の研究発表・討論・講評
13. 個人課題の研究発表・討論・講評
14. 個人課題の研究発表・討論・講評
15. 個人課題の研究発表・討論・講評

授業の方法

各人が興味を持ったテーマで発表を行い、それをメンバー全員で討議する。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

出席状況（30％）、発表（30％）、レポート（40％）により評価する。提出されたレポートは、教員が指導してフィードバックする。

欠席について

規定に従う

テキスト

必要に応じて配布する

参考図書

必要に応じて紹介する

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	a		13105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
有村 理	必修	2				

授業の到達目標

演習Ⅱでは各自の興味のあるテーマを航空業界、ツーリズム全体、ホスピタリティ産業の中から方向性を確立していく。そのため発表演習を中心に置き、コミュニケーション能力とプレゼンテーション技術の向上を目指す。後半では全体目標の各チームのツアー立案企画を完成させる。またこのクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）、S（奉仕）と In（国際性）を養う。

授業の概要

前半に航空業界、旅行業界、宿泊業界を含めたツーリズム全体、またはホスピタリティ産業の中で各自の興味のある業界研究を行い、発表とディスカッションが中心となる。その中で4年次の卒業研究のテーマ設定に向けての方向性を見つけていく。後半では全体目標としての関空発の旅行立案企画を完成させ最終プレゼンをする。なお演習の一環として都合が付く限り企業研究を兼ねて空港・旅行会社などに学外見学を実施する事がある。

授業計画

1. 演習Ⅱのガイダンス。
2. ツーリズム産業の全体像について
3. 観光業界研究の発表と講評
4. 観光業界研究の発表と講評
5. 観光業界研究の発表と講評
6. 観光業界研究の発表と講評
7. 観光業界研究の発表と講評
8. 観光業界研究の発表と講評
9. 関空発海外旅行企画立案その1
10. 関空発海外旅行企画立案その2
11. 各チームの旅行企画立案の完成
12. 各チームの旅行企画立案の発表
13. 各チームの旅行企画最終プレゼンと講評
14. 各自の研究テーマについて
15. 参考文献とまとめ

授業の方法

各自の興味のある企業を航空業界・旅行業界・宿泊業界・ツーリズム産業全体から選択し企業比較をする。その企業についての発表・プレゼンについて講評・質疑応答を中心にする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

各自の企業研究発表、またグループ発表後は担当教員によるフィードバックを行う。

『平常点70%、定期試験30%』で評価配分する。

欠席について

欠席は1回5点の減点。発表担当日は正当な理由のない欠席は出来ない。その他は大学の学則に従う。

テキスト

特に指定しない。各自の研究テーマに沿って適宜紹介する。

参考図書

『航空とホスピタリティ』山路 顕 編著（株）ANA総合研究所（2013）NTT出版
『航空グローバル化と空港ビジネス』野村宗訓・切通堅太郎（2010）同文館出版
『航空産業入門』（株）ANA総合研究所（2017 第2版）東洋経済新報社
『観光立国日本への提言』編集：長谷川恵一（2016）成文社

留意事項

発表担当日は必ず出席の事。ゼミでは自主性・積極性・協調性を重視し、各自のテーマ発表内容とそれに対する質疑などを評価する。円滑なゼミ運営に協力する態度が望まれる。

教員連絡先

arimura@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	a		13109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
有村 理	必修	2				

授業の到達目標

演習Ⅱでの個人テーマ目標をさらに絞り込み、文献と参考資料を収集しながら途中経過発表などを毎回積み重ねる。7月中旬の卒業研究計画書提出に向けて各自の最終テーマを決定し、テーマに対してのアプローチの方向性を確立することを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

7月中旬までに各自の研究テーマと研究計画を最終決定する。それまでに必要な参考文献、資料の調査・収集を図りながら卒業研究スケジュールの全体行程を作成する。その間、各自の研究テーマについては経過発表でその都度課題と補足事項を確認していく。後半で最終的なテーマに対するアプローチの方法を確立していく。

授業計画

1. 卒業研究の進め方とガイダンス
2. 卒業研究のテーマについて
3. 卒業研究の参考文献・引用文献
4. 各自の研究テーマ・研究方法の発表
5. 発表と質疑応答
6. 発表と質疑応答
7. 発表と質疑応答
8. 発表と質疑応答
9. 発表と質疑応答
10. 発表と質疑応答
11. 発表と質疑応答
12. 発表と質疑応答
13. 発表と質疑応答
14. 卒業研究の進め方
15. まとめ

授業の方法

各自の研究テーマについての進捗発表・プロセスの確認と課題・補足事項など質疑応答のディスカッションを中心とする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

各自の研究テーマの進捗発表について毎回担当教員によるフィードバックを行う。
『平常点70%、定期試験30%』で評価配分する。

欠席について

無断欠席は1回につき5点減点する。発表担当日は正当な理由のない欠席は認めない。欠席する場合は必ず事前に理由を連絡すること。その他は学則に準じる。

テキスト

特に指定しない。

参考図書

各自の研究テーマに沿って適宜指示、推薦する。

留意事項

主体的に各自が研究テーマを早期に絞り込み、参考文献と資料の収集を早めに始める事。卒業研究計画書提出後はテーマの変更は不可。夏期休業中に出来るだけ参考文献を精読する事が大切である。

教員連絡先

arimura@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	b		13109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
福智 佳代子	必修	2				

授業の到達目標

言語学習とコミュニケーションのための言語教育とは何か、コミュニケーション能力とは何かについて考察する。演習Ⅰ、Ⅱに引き続き、取り組みたい内容から、学生自身が研究テーマを決定し、卒業研究を作成する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）、I（知性）、及びIn（国際性）を養う。

授業の概要

演習計画に従って、自身が取り組むテーマと研究方法、研究論旨を確定する。授業ではそれぞれ研究を支援する講義を適宜行う。

授業計画

1. 研究概要 ガイダンス 演習計画 卒業研究の進め方、卒業論文のまとめ方
2. 研究概要 卒業研究テーマ、研究計画、研究方法の決定
3. 研究概要 先行研究文献発表(1)
4. 研究概要 先行研究文献発表(2)
5. 研究概要 調査研究の進め方と調査計画(1)
6. 研究概要 調査研究の進め方と調査計画(2)
7. 研究発表 テーマ・仮説・論旨発表と討議(1)
8. 研究発表 テーマ・仮説・論旨発表と討議(2)
9. 研究発表 本論発表・調査結果発表と討議(1)
10. 研究発表 本論発表・調査結果発表と討議(2)
11. 研究発表 本論発表・調査結果発表と討議(3)
12. 研究発表 本論発表・調査結果発表と討議(4)
13. 研究発表 本論発表・調査結果発表と討議(5)
14. 研究発表 今後の研究計画発表
15. まとめ

授業の方法

講義、発表、討議、レポート提出

準備学修

講義内容の予習をして課題の討議の準備をする。

課題・評価方法

レポート、口頭発表、授業への参加・貢献度により、総合的に評価。

欠席について

講義は、卒業研究につながるものであり、討議の状況など総合的に判断する参加型授業なので、必ず出席すること。

テキスト

後日連絡する。

参考図書

適宜紹介する。

留意事項

一回一回の講義内容、討議事項など、その時その場でまとめること。

教員連絡先

fukuchi@kaisei.ac.jp

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	e		13109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	必修	2				

授業の到達目標

観光とは、ただ、視覚的に資源を披露することではない。訪れる側と迎える側とが、それぞれの地域や人を理解し合うことである。その理解の中心となる文化について研究し、観光が平和産業と呼ばれる理由を知る。このクラスはKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）とを養う。

授業の概要

日本の文化・文学が観光資源としてどのように受容され、また、再生・活用されているかを考える。文学・歴史・風俗習慣など、各自が興味あるテーマを選び研究することで、その文化を国外に、また、国内に紹介する意義を考察する。

授業計画

1. 個人課題の研究発表・討論・講評
2. 個人課題の研究発表・討論・講評
3. 個人課題の研究発表・討論・講評
4. 個人課題の研究発表・討論・講評
5. 個人課題の研究発表・討論・講評
6. 個人課題の研究発表・討論・講評
7. 個人課題の研究発表・討論・講評
8. 個人課題の研究発表・討論・講評
9. 個人課題の研究発表・討論・講評
10. 個人課題の研究発表・討論・講評
11. 個人課題の研究発表・討論・講評
12. 個人課題の研究発表・討論・講評
13. 個人課題の研究発表・討論・講評
14. 個人課題の研究発表・討論・講評
15. 個人課題の研究発表・討論・講評

授業の方法

各人が興味を持ったテーマで発表を行い、それをメンバー全員で討議する。

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法

出席状況（30％）、発表（30％）、レポート（40％）により評価する。提出されたレポートは、教員が指導してフィードバックする。

欠席について

規定に従う

テキスト

必要に応じて配布する

参考図書

必要に応じて紹介する

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	a		13113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
有村 理	必修	2				

授業の到達目標

演習Ⅲで各自が研究テーマに設定した航空業界、ツーリズム全般、ホスピタリティ産業について、各自が参考文献や先行事例から現状と課題を明確にしていく。最終的にはテーマに対する自分の考えを明らかにし、卒業研究論文を期日までに仕上げる事を目標にする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）、I（知性）を養う。

授業の概要

各自の行程表にそって卒業研究を完成させるように指導する。各自が研究テーマについて経過発表をしながらゼミ生相互に情報を共有する。また講評と質疑応答の中からテーマに対するアプローチの方法などをお互いに学び取る。各自の卒業研究の構成内容と最終の方向性を指導するが、主体的に卒業研究の完成に取り組んでいくことが重要である。

授業計画

1. 卒業研究の行程ガイド
2. 各自の研究テーマの途中発表
3. 各自の研究テーマの途中発表
4. 各自の研究テーマの途中発表
5. 各自の研究テーマの途中発表
6. 各自の研究テーマの途中発表
7. 各自の研究テーマの途中発表
8. 各自の研究テーマの途中発表
9. 各自の研究テーマの途中発表
10. 各自の研究テーマの途中発表
11. 卒業研究の仮提出
12. 卒業研究の最終修正
13. 卒業研究の提出
14. 卒業研究の口頭試問(1)
15. 卒業研究の口頭試問(2)

授業の方法

各自の卒業研究テーマの進捗状況の発表と講評を中心にする。

準備学修

Webで参照すること

課題・評価方法

各自の研究テーマ内容の進捗発表では毎回担当教員によるフィードバックを行う。
『平常点70%、定期試験30%』で評価配分する。

欠席について

無断欠席は一回につき5点減点する。止むを得ず欠席の場合は必ず当日でも事前に連絡を入れる事。その他は学則に準じる。

テキスト

特になし。

参考図書

各自の研究テーマに沿って適宜指示、推薦する。

留意事項

期日までに主体的に卒業研究テーマの完成に取り組む事。参考文献と資料は早めに準備し内容を精読していく事。原則各自の発表担当日の欠席は不可。

教員連絡先

arimura@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基礎科目〈異文化理解〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ホスピタリティ精神論			13272	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
國本 恵理香	必修	2	ホテル勤務			

授業の到達目標

ホスピタリティという単語は、「もてなし」「思いやり」「気配り」「歓待」という言葉で説明されているが、この言葉はそのような表面的な説明では網羅しきれない深い意味を持っている。それは人間精神にかかわるもので、単なるマナーや知識、技能ではなく、人に幸せを与えるもので、その真髄は、自分と他者を尊重し、大切にするという人間愛が基本にある。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）を目指す。

授業の概要

最初に「ホスピタリティ」という言葉の語源とその内容の起源について学んだ後、この概念の東西文化圏における考え方や実践について概観する。授業の中盤に入って、ホスピタリティを日常生活の中で生きている私たちに視点を移して考察し、日本におけるホスピタリティの伝統を、「もてなし」、慣習、食文化、茶道という局面から学ぶ。授業の後半は、現代のホスピタリティ産業の代表である飲食業、宿泊業及びディズニーランドにおけるホスピタリティのあり方を検討する。

授業計画

1. ホスピタリティの語源
2. ホスピタリティの起源
3. 古代西洋・キリスト教のホスピタリティ文化
4. イスラム教のホスピタリティ文化
5. 古代東洋のホスピタリティ文化—儒教及びヒンドゥー教
6. 日本のもてなし文化
7. 日本の慣習とホスピタリティ 慶事及び結婚におけるホスピタリティ
8. 日本の慣習とホスピタリティ 葬儀及び祭りにおけるホスピタリティ
9. 「おくりびと」に見るホスピタリティ
10. 日本の食文化とホスピタリティ
11. 日本のホスピタリティ文化—茶道の精神
12. 西洋料理とホスピタリティ
13. 宿泊業におけるホスピタリティ
14. ディズニーランドにおけるホスピタリティ
15. ホスピタリティ精神論のまとめ・定期試験

授業の方法

パワーポイントを使用した講義形式が中心となるが、授業中にグループで話し合うなど、ディスカッションも取り入れる。DVDを1回見る。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席は1回につき、平常点と定期試験より算出した評価点から2点減点とする。

テキスト

授業中にプリントを配布する。

参考図書

服部勝人「ホスピタリティ学のすすめ」（丸善株式会社）
 塹江隆「ホスピタリティと観光産業」（文理閣）
 福島文二郎「ディズニーのホスピタリティ」（中経出版）
 山上徹「ホスピタリティ精神の深化」（法律文化社）

基礎科目〈異文化理解〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
異文化理解			13409	II	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
有村 理	必修	2	航空会社勤務・ホテル勤務			

授業の到達目標

現代社会はよりグローバル化が進み、多様な文化を持つ人々たちの国際交流社会になってきた。しかし時として文化情報の不足のため考え方や感じ方の違いが異文化間の相互理解で問題を引き起こす事がよくある。こうした文化摩擦をさけるための異文化理解の基礎と異文化間コミュニケーションの留意点を理解する事を目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

この授業では西洋文化、特に欧米の文化の理解を中心にして「目に見える文化」から「見えない文化」、つまり習慣や行動の仕方の背景にある価値観などの由来をテキストを中心に解説する。課題として欧米の主要国について国別の特徴をまとめ、国際理解を促進する時間も設ける。なお毎回の授業にあたりテキストの内容を十分予習しておく事が重要である。

授業計画

1. ガイダンス。カルチャー・ショックと文化摩擦
 2. 異文化理解の知識 文化とは何か
 3. 異文化理解の知識 必要な文化情報
 4. 価値観の理解
 5. 異文化間コミュニケーション
 6. 衣食住の文化
 7. 人間関係の文化
 8. 遊びと仕事の文化
 9. イスラム世界の文化・規律
 10. 世界史の中の英語と文化その1
 11. 世界史の中の英語と文化その2
 12. 国際理解・イギリス
 13. 国際理解・アメリカ
 14. 国際理解・カナダ
 15. 国際理解・オーストラリア
- まとめ

授業の方法

講義と異文化理解の課題についてグループディスカッションを多く取り入れる。

準備学修

webで参照すること。

課題・評価方法

国別の課題発表では教員によるフィードバックを行う。
 評価は平常点50%、定期試験50%

欠席について

特別の理由のない欠席1回につき5点減点する。その他は学則に従う。

テキスト

『異文化理解のストラテジー』（最新版） 佐野正之・水落一朗・鈴木龍一著 大修館書店

参考図書

『しぐさの比較文化』リージャー・プロズナハン著 岡田 妙・斉藤紀代子 訳 大修館書店
 『ケースで学ぶ異文化コミュニケーション』 久米昭元・長谷川典子著 有斐閣選書
 『実例で見る日米コミュニケーション・ギャップ』 西田ひろ子 大修館書店

留意事項

出席と授業態度、国別の担当課題についてのレポート発表も重視する。異文化理解の比較として日本の文化を英語で伝えられる勉強も望まれる。

教員連絡先

arimura@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光マーケティング論			13833	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	選択	2	ホテル勤務			

授業の到達目標

ビジネスにはWin-Winの関係が必要不可欠である。ホスピタリティ産業では形のない製品やサービスを提供している。それだけに顧客の反応は厳しい。ホスピタリティの原点を理解し、どのように実践すればホスピタリティ精神が、顧客の購買意欲に結びつくのかを理解する。このクラスは、KAISEIパーソナリティのS(奉仕)とIn(国際性)を養う。

授業の概要

ホスピタリティとサービスの違いを語源に遡り学ぶ。ホスピタリティマネジメントとはホスピタリティ産業の経営、運営について学ぶことである。評価される企業を事例に取り上げ、その本質を解説する。特に、理念と組織行動に焦点をあて、おもてなしとは何か、収益とはどこからくるのか、企業のコア・コンピタンスを探る。事例として、宿泊産業（ホテル・旅館）やテーマパークの成功の秘密を紐解く。それ以外にも注目すべき企業体の事例を取り上げる。講義はコトラー「ホスピタリティ&ツーリズムマーケティング」の内容を中心に構成される。

授業計画

- 1.ホスピタリティマネジメント概要
- 2.マーケティングとは
- 3.ホスピタリティ&ツーリズムマーケティングの商品特性
- 4.戦略計画におけるマーケティングの役割
- 5.マーケティング環境
- 6.マーケティング情報システム
- 7.消費者の心理と購買行動
- 8.競争市場の原理
- 9.市場細分化における戦略
- 10.マーケティングミックス(製品)
- 11.マーケティングミックス(価格)
- 12.マーケティングミックス(流通)
- 13.マーケティングミックス(プロモーション)
- 14.ディズニールランドのマネジメント
- 15.まとめ

授業の方法

パワーポイントでの講義とグループでのディスカッションから構成される。

準備学修

新聞の経済欄や観光経済新聞を読むこと。

課題・評価方法

課題30%統括試験70%

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

なし。資料配布する。

参考図書

Kotler『ホスピタリティ&ツーリズムマーケティング』ピアソン・エデュケーション
M.E.Poter『競争の戦略』ダイヤモンド社
Jay B. Barney『企業戦略論』ダイヤモンド社

留意事項

基礎科目（観光概論、観光事業論）の発展科目である。本学唯一のマーケティング講座である。観光領域を学ぶ学生は履修する事。

教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
航空ツーリズム論			13836	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
有村 理	選択	2	航空会社勤務			

授業の到達目標

空の規制緩和がオープンスカイを押し進め、2010年に羽田空港も国際化し、近年昼間の長距離路線も拡大し一層便利になっている。また2012年から連航を開始した国内LCCも定着し、航空ツーリズムとして国内旅客だけではなく訪日観光客の利用も急増している。この授業ではグローバル化を進める3大アライアンスや国際ハブ空港の競争も注目しながら、航空業界の全体の動きと今後のツーリズムに果たす役割を理解することを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）を養う。

授業の概要

まず社会基盤としての航空事業の特性と日本と世界の航空業界の主要な歴史を解説し、ツーリズム産業での重要な役割を理解していく。次に航空ツーリズムのキーワードになる「オープンスカイ政策」から世界の航空業界の動きをアメリカ、ヨーロッパ、アジアと日本でそれぞれ考察する。その上で世界のグローバルアライアンスとLCC、国際ハブ空港の動向を含めた航空業界の現状を把握する。2020年の訪日観光客4000万人達成の目標に向け日本が観光立国を目指す中で航空ツーリズムを考える。

授業計画

- 1.ガイダンス
- 2.航空事業の特性
- 3.アメリカの規制緩和とオープンスカイ政策
- 4.ヨーロッパの規制緩和とE.U
- 5.アジアの規制緩和とASEAN
- 6.日本の規制緩和と新規航空会社
- 7.アメリカのLCC
- 8.欧州とアジアのLCC
- 9.日本のLCC
- 10.アジア・ゲートウェイ構想と羽田の国際化
- 11.世界の国際ハブ空港の競争
- 12.グローバルアライアンス
13. JALとANA
- 14.航空機の進化とツーリズム
- 15.航空業界の地球環境対策・まとめ

授業の方法

講義を中心とするが学生への課題ではグループディスカッションを取り入れる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

グループでのディスカッションでは教員によるフィードバックを行う。

評価は平常点50%、定期試験50%

欠席について

特別の理由のない欠席は1回につき5点減点する。

テキスト

特に指定しない。適宜プリントを配布する。授業内容によりDVDなどの映像でも紹介する。

参考図書

『航空産業入門 第2版』（株）ANA総合研究所
『日本の空を問う』伊藤元重・下井直毅 日本経済新聞出版
『最新航空事業論 第2版』井上泰日子 日本評論社

留意事項

世界の航空業界の動きや日本の観光立国に向けた訪日観光客や観光業界に関するニュースなどは常に注目しておくこと。

教員連絡先

arimura@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。